

無名の信条

東北も初冬の風情となり、本校が立地する一関市においても、飛来する白鳥の姿が見られる時節となりました。ところで、「白鳥」という名称は、一言ですべてを表し得る、実に優雅で見事な鳥名だと思います。ちなみに、本校の正式名称は「独立行政法人国立高等専門学校機構 一関工業高等専門学校」ですが、一度聞いただけではとても憶えきれない学校名です。また、学校の種別としては全く異なるのですが、類似の学校名として、「〇〇工業高等学校」「〇〇高等技術専門学校」「〇〇工業技術専門学校」などがあり、紛らわしいことこの上ない状況でもあります。そこで、高等専門学校は、一般的には「高専」と略して呼んでいただけでなくことにし、本校も、「一関高専」が通称となっております。海外でも「KONSEN」が正式な呼称とされています。

学・短大等の中に含まれたり、専門学校等として一括りになったりすることが多く、「高等専門学校（高専）」の名称は埋没し、マイノリティーの悲哀を感じることもあります。つい先日、大学、各種専門学校、そして高専が立地している自治体が市内の学生向けに行事参加を案内する新聞記事の中で、「参加できるのは、大学や短大、専門学校、看護学校などに在学する学生」と書かれていました。「ああ、やっぱり…」と何とも言えぬ気持ちになりました。高専関係者の中では、この知名度問題が以前から問題視されており、名称変更も現実味をもって議論された時期もありましたが、種々の障害のため断念された経緯があります。

前置きはここまでとして、冷静に考えれば、高専が発足して50年以上経過しているわけであり、現在の知名度こそが、これまでの高専50年の実績や歴史を反映した正当的な確かな社会評価であると真摯に受け止めなければならぬと思います。知名度が低い、すなわち無名であっても、今、その存在を必要とされる皆さんがある限り、その方々に対し、最善のサービスを提供し、さらにそのサービスを充実させることに全力を傾けるといふ当たり前のことを改めて認識し直さなければと思っております。

私は、3年前までずっと九州におりましたが、そのころから岩手県出身の宮沢賢治先生の文学作品に魅かれ、一関市に赴任早々、花巻市の記念館に出かけ、レプリカの手帳に記された「雨ニモマケズ」を拝見しました。その詩文の中に「ホメラレモズ クニモサレズ」という表現があります。私は、これこそ無名のあるべき姿を言い得ています。名聲など頭の片隅にもなく、自らのなすべきことを実直に行うことにより、信頼を伴った安心感を周囲の皆さんに届けられるのだと思います。その存在感を「ホメラレモズズ クニモサレズ」という極めて端的な言葉で表現し切ったものと考えます。

校舎の周りに広がる田んぼで、穏やかに落ち穂をついばむ白鳥の家族を見る度に、一関高専も「無名の信条」を懐に、地域のみなさんに信頼と安心を感じてもらえる教育機関として進んでいければと一人思っています。



一関工業高等専門学校
校長

吉田 正道